

かしま

ほっと HOT 通信

10月号 Vol.357

令和4年(2022年)10月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
 ■発行/社団法人養生会
 〒971-8143
 福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
 tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
 上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
 かしま病院広報企画室まで
 kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1
2

巻頭特集

かしま病院 臨床検査科のご紹介

かしま病院で働く職員をご紹介します
 むつき庵認定講師 おむつフッター1級
 滝 正子さん

3

コラム ひんがら目(184)
 『スーパーのレジの進化 IT化への不安』
 呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!
 リハビリPOST
 新入職員募集のお知らせ
 かしま荘通信



藤井先生退職のお知らせ

家庭医療の専攻医として当院総合診療科で勤務した藤井先生。当院での研修プログラムを終えて、10月からまた次の場所で活躍されます。



総合診療科の藤井慎之輔です。2022年9月を以て退職となりました。1年6ヵ月と短い期間ではありましたが、多くの患者様の治療に携わることができ、大変有意義な専門医研修を行うことができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



巻頭特集

かしま病院 臨床検査科のご紹介

今月号では、臨床検査技師と臨床検査科についてご紹介します。



臨床検査科の紹介



臨床検査技師とは

臨床検査技師は血液や尿の成分を調べる検体検査、細菌の有無を調べる検査、細胞や組織を顕微鏡でみる病理・細胞診検査、患者さんを直接調べる生理解能検査など、実にさまざま検査に携わっています。これらの検査は診断や治療に無くてはならないものであり、最新の高度な知識や技術を身につけるため日々自己研鑽に努めながら検査のスペシャリストとして業務を行っています。また、各学会の認定試験に積極的にチャレンジして認定資格を取得したり、学会発表や研修会などの学術活動にも数多く参加しています。

臨床検査技師になるには

高等学校卒業後に4年制の大学または3年制の専門学校で、厚生労働省の指定規則によって定められた科目(基礎科目/基礎専門科目/臨床専門科目)を学び、さらに臨床専門科目の一部を病院などの医療現場で実際に学ぶ「臨床実習」を履修します。卒業後に国家試験の受験資格を得て、年一回実施される国家試験を受験し、それに合格することで臨床検査技師免許を取得します。

スタッフは17名で、3部門に分かれて業務を行っています。認定資格取得者は、認定一般検査技師2名、NST専門療法士1名、認定認知症検査技師1名、日本糖尿病療養指導士3名、緊急臨床検査士2名、細胞検査士3名、国際細胞検査士1名、認定病理検査技師1名、消化器内視鏡技師1名です。

2に続く

検体検査部門



検体部門では、人の体から採取された血液、尿、便などを検査します。

当院では、医師の指示のもと診療に必要な血液検査、凝固検査、生化学検査、免疫検査、輸血検査、一般検査（尿・便）、コロナ抗原検査などを行っており検体採取から30分〜60分で結果を提供できるように努めています。

また、コロナPCR検査も実施しています。検査技師が採血を行い、各分析装置で測定を行ったり顕微鏡で細

胞を観察してデータを分析していただきます。検査結果をいち早く知り得ることが出来るので、緊急性がある場合はすぐに医師へ報告します。正しい検査データ提供のため、日々検査機器のメンテナンスなどの管理も行なっています。また、糖尿病サポートチーム、栄養サポートチーム（NST）、感染症対策チーム（ICT）などのチーム医療にも参画し、自己血糖測定の指導や、検査に関する知識を活かした栄養状態のデータ分析、細菌の検出状況報告などを行っています。



病理・細胞診検査部門



病理部門は、大きく分けて組織検査と細胞診検査があります。組織検査は、患者さんから採取

した組織から標本を作製し、病理医が病気の有無や広がりや診断したり、治療方針や治療効果の判定をします。

細胞診検査は患者さんから採取した細胞を細胞検査士が顕微鏡で観察し、細胞診専門医が診断します。

また、現在のがん治療は個別化が進み、組織検体や細胞診検体を用いて行う、がんの性質を調べる検査や薬の治療奏功性を予測するための検査が増加しています。

検査室には細胞検査士の資格を持つスタッフ3名おり、うち1名が認定病理検査技師の資格を持っています。

業務内容は検体の受付、検体処理から標本作製、細胞診のスクリーニング、臨床への結果報告や標本管理等です。

また、外来や病棟で針生検や穿刺吸引細胞診を行う際は、病理スタッフが登場に赴き、ホルマリン固定やスライドガラスへの塗抹などの検体処理を行います。

私たちは正確な検査結果を患者さんに提供できるよう、日々、適切な検体処理や良質な標本作製に努め、病理医や細胞専門医と協調しながら業務を行っています。



生理検査部門



生理部門は患者さんに接して検査を行うため、患者さんが安心して検査を受けられることを第一に心掛けています。

検査項目には、心電図や超音波（腹部・心臓・頸動脈・下肢静脈、乳腺、甲状腺など）、脳波や肺活量、睡眠時無呼吸の有無を調べる検査などがあります。

患者さんが不安なく検査を受けられるように分かりやすい説明を行い、検査中は患者さんの様子に配慮しながら正確な情報を得られ

るよう検査を実施しています。検査には患者さんの協力が不可欠ですので、常にコミュニケーションを大切にしながら検査を行っています。また、医師や他部署と情報を共有しながら迅速な報告にも努めています。



検査室外業務への取り組み



検査科では2002年から健診センターに、2005年から病棟に検査技師1名を配属していました。

が、2017年に検査科全スタッフが3名一組になり病棟を担当する制度を導入しました。

業務内容は検査備品や病棟に配置してある検査機器の管理、検査科からの情報提供、病棟からの検査に関する要望への対応、検査に関する勉強会の実施などです。2018年からは在宅検査業務も開始し、患者さんのご自宅や施設での心電図検査、超音波検査を行っています。

今後も検査室内に留まらず、他部署のスタッフと連携しながらチーム医療に貢献していきたいと思っております。



かしま病院で働く

職員をご紹介します

むつき庵認定講師 おむつフITTER-1級 滝 正子 さん



Q

おむつフITTERとはどういう資格ですか？

排泄の困りごとに対して、おむつを含む排泄用具について幅広い視点からアドバイスできる排泄ケアのスペシャリストです。京都にある「むつき庵」という研修施設にて、おむつフITTERの資格を取得しました。

Q

どうして資格を取ろうと思ったのですか？

学校では排泄ケアやおむつの当て方を勉強する機会はあまりなく、先輩がおむつ交換をしているのを見よう見まねで実践していることが多いです。看護師として働く中で、患者さんひとりひとりの排泄の方法や感じ方が違うことに気づきました。患者さんにとって排泄は欠かせないことであるため、おむつについて勉強が必要だと感じ資格を取ろうと思いました。

Q

かしま病院では、おむつフITTERとしての仕事はどういったことがありますか？

病棟では、患者さんのおむつの当て方についての相談依頼が多く、アドバイスやスタッフ指導を行っています。患者さんがおむつの違和感が気になって、自分でおむつを外してしまうと最終的には身体拘束をせざるを得ないことがあります。そうならないために、患者さん個々に合わせたおむつの当て方やサイズの検討など、快適におむつで排泄し生活できるように手助けをしています。

当院で働く看護職やケアワーカーなどの職員向けに勉強会を開催しています。勉強会では受講する職員には必ず実際におむつを装着してもらっています。おむつの違和感や正しく装着した時との違いを知ることで患者体験をしてもらい、

患者さんの気持ちを理解できるようにして指導や教育をしています。

患者さんや利用者さん ⇨ 家族などの介護される側 ⇨ 介護する側の方々 が快適な日常生活が送れ、ひとりひとりに寄り添った個別性のある、より良い排泄ケアができるように心掛けています。



院内での研修会の様子

スーパーのレジの進化 IT化への不安

先日、近所の100円ショップへ行ったら驚きと戸惑いを覚えました。会計の際に、今までは買い物カゴに入れた商品を店員さんに差し出すだけで済んでいたのですが、自分で値札の読み取りをしなくてはならないシステムに変わっていました。愚生のような不慣れた者には、傍にいた店員さんが手取り足取り説明して下さいました。これからレジを通して足が遠のきそうです。

日本は欧米に比べてIT化が遅れていると喧伝されているためか、スーパーやコンビニのレジでも日進月歩でIT化が進んでいるようです。

社会勉強のために、家内の買い物に追随することがあるのですが、店が違うと支払い方式が異なり、また同じ店でも数ヶ月前のやり方が変更されていることもあり、難しいものだと痛感します。

レジのやり方だけではなく、飲食店などの支払いもIT化が進み、スマホで済ますことが日常茶飯事になってきました。お金やカードを持ち運ぶ必要がなく、身軽で便利で若い人たちには抵抗がないでしょうが、馬齢を重ねてきた老翁にとっては落ち着かず、このまま進むとどうなるだろうかと不安です。原発が有力なエネルギー源だと喜んでいた時代を思い出します。何重にも考えられた安全対策であったはずで、まさか、こんな事故が起こるとは思ってみなかつたのに、ほとんどゼロに近い確率の原発事故が起こったのです（実際はゼロだと信じ込まされていただけ、ある程度起こりうる事故だったのでしょ



が...). スマホは正常に機能しているうちは便利ですが、ひとたび故障すると不便です。個人の故障は修理に出せば回復できますが、システムの故障は社会の機能停止になります。便利さに慣れてしまった社会では、修復までにはかなりの犠牲を伴います。全員が心を一つにして修復に向えば何とかありますが、修復に抗う勢力が強いと、思うように行きません。IT社会は、一部の人が一部の企業体しか、根本のしくみを知りません。企業秘密の名の下にブラックボックスです。巨大IT企業が自分たちの都合のよいようにシステムを変更させれば、ユーザーは盲従するしかありません。さらに、ハッカーが入り込めば、システムが混乱します。IT社会には砂上の楼閣の脆さが付き纏います。

電子マネーや仮想通貨なども、移動が容易で即座に決済が出来るので便利そうですが、バーチャルな経済が進むと、あるときパブル崩壊が起きるかも知れません。お金は日銀が印刷すればいくらでも発行できると思っている政治家もいるようですが、安全に機能するには国家に対する信用が大前提です。信用が崩れたとき力オスが来ます。

インターネットは自由空間を広げましたが、やがて監視社会を徹底させ不自由空間になって来ました。独裁者が闊歩する社会に陥る可能性があります。

生きるためにはスマホが不可欠になります。そのスマホは、2,3年で買い替えが必要であり、1台数万円以上の価格です。個人が利用する全てのデータがスマホに集約され便利ですが、紛失すればお終いです。しかも、守るべき個人情報はずべて管理者には筒抜けです。

(呼吸器科部長 山根 喜男)



ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医療への挑戦 ～

第152回

人を育てるといふこと

～総合診療医に求められる能力～



診療部 石井 敦

今年度から総合診療専門研修医（専攻医）に、看護を志す学生の講師を担当してもらっています。一人前になるために学ぶ立場（学習者）である彼らに、あえて教育者という役割を与えるのはなぜでしょうか？

実は、総合診療医を特徴づける能力の1つに“教育”があります。総合診療科では多くの医学生や研修医が学び、上級医が教えています。必ずしも指導医だけが教育を担当するのではなく、初期臨床研修医（研修医）が医学生を教え、専攻医が研修医を教え、専攻医を指導医が教えるといった具合に、下から上へ積みあがっていく様子は、屋根瓦式と呼ばれ、それぞれの立場・段階で、後進の教育という役割を担います。

もちろん、医療は伝承の世界であり、教育して次の世代につないでいくのは当然の役割であり、人を育てる能力が求められるのは総合診療科に限ったことではありません。しかし、例えば「〇〇の手術ができるようになった」など、目に見える形で成長の成果が確認できる他科とは異なり、

教育成果の評価方法も含め多くの教育手法について学び、日々の実践を通して試行錯誤しているのも総合診療医の特徴と言えるでしょう。

更に重要なのは、総合診療医が提供する教育の対象は、後進の医師・医学生だけでなく、地域のヘルスケアに関わる全ての多職種やその学生、疾病の有無を問わず全ての地域住民です。なぜなら、総合診療医には、多職種や諸施設・行政・地域の諸団体と連携する力が求められるからです。これが、学習者である専攻医に、あえて看護学生の教育者という役割を与える理由です。



かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第139回

嚥下体操

肺炎がいやなら、のどを鍛えなさい」という本が出版されて話題になっていましたが、のどを鍛えることで、誤嚥性肺炎の予防に役立ちます。のどを鍛える、つまりは飲み込むためののどの筋肉を鍛えるということです。それでは、今回はのどの筋肉を鍛えるためのいくつかの運動を紹介していきます。痛みがある場合は、無理に行うことは避けましょう。

前回の肺炎

についての続きで、今回は肺炎の予防のお話をします。数年前に、西山耕一郎著書の「肺炎がいやなら、のどを鍛えなさい」という本が出版されて話題になっていましたが、のどを鍛えることで、誤嚥性肺炎の予防に役立ちます。のどを鍛える、つまりは飲み込むためののどの筋肉を鍛えるということです。それでは、今回はのどの筋肉を鍛えるためのいくつかの運動を紹介していきます。痛みがある場合は、無理に行うことは避けましょう。

① 嚥下おでこ体操

手のひらの根元の部分をおでこに当てて上に向かって押します。頭は自分のおへそを見るように下を向いて「押し合い」をします。

② あご持ち上げ体操（頸部等尺性収縮手技）

あご先に両手の親指を当てて、顔は下を向くように押し合いっこをする体操です。

あご下に両手の親指をあてて、これも同じ回数押し合い。この状態を5秒間キープして、5～10回繰り返します。

あごは引く、親指は押し上げる



①②とも押し合っている時間を5秒間キープし、5～10回繰り返します。

次に紹介するのは、「食べる」機能を高める口腔体操です。食べる動作は、口～のどの連携プレーです。口の機能も重要となることができます。

- ① 大きく口を開けて3秒キープします。
- ② 「うー」「いー」でそれぞれ3秒キープします。
- ③ 頬を膨らませたりすばませたりします。

それぞれ2～3回繰り返します。毎食前に行うことで、食事の準備体操にもなります。

今回紹介したものはほんの一部です。気になる方は、お気軽にご相談ください。

言語聴覚士 山野辺 歩実

かしま荘通信

秋刀魚・カツオ 贈呈式

9月17日(土)



9月17日 今年もいわき中水様より秋刀魚とカツオを頂き贈呈式を行いました。贈呈式に立ち会った入居者様から「美味しそう」との声が聞かれております。入居者様も毎年とても楽しみに待っており美味しく召し上がっております。ご寄付頂き本当にありがとうございます。

新入職員

募集



のお知らせ

かしま病院では、令和5年度新卒職員と中途採用職員を募集しています。

募集職種、募集要項はホームページに掲載していますので、右記QRコードからご確認ください。

